

# 令和3年度 沖縄県振興審議会 第1回 基盤整備部会議事要旨

令和3年7月29日(木) 13:30~15:43

## 【議題 全体】について

- 「安全・安心で幸福が実感できる島」などについて、抽象的な表現であるため具体的な目標を立てる必要がある。
- 「誰一取り残さない社会」という大きな目標に対してどういうことをやっていくことによってこれが実現するのかという施策体系がはっきりしないので、整理して示す必要がある。
- 「沖縄らしい」や「島しょ型」などという言葉を使うのであれば、本土と何が違うのかなど、言葉の定義を明確化する必要がある。
- 沖縄は活性化しており、島根や鳥取よりも県民所得が低いということが理解できないという意見がある。県民所得に軍用地料が含まれていないのではという意見もあり、どういう数字をどういう基準にして出しているのか説明が必要である。
- 展望値ではなく具体的な目標値として掲げる必要がある。
- 展開イメージについて、「環境」、「社会」、「経済」の社会が一番上段にあって、離島における副題がついているが、ここでいう離島というのが沖縄を含めた全体を指す離島なのか、それとも沖縄県の中の宮古や八重山、久米島、その他離島を指している言葉なのか。

## 【議題 環境保全】について

- 「沖縄らしい脱炭素社会」とは、本土や海外で行っている脱炭素の仕組みと何が違うのか明確にする必要がある。
- 脱炭素化に配慮した空港・港湾の高度化という表現があるが、具体的な内容を記載する必要がある。
- 公共交通システムの戦略的再編において、鉄軌道の導入に関して「骨

格性」とあるが、わかりやすい表現にする必要がある。

- 世界遺産の登録に関する記載については、すでに登録がされているので時点に併せた記載にする必要がある。
- 世界遺産登録を受け、周辺地域を含めて全体で沖縄に合う、やんばるや西表にふさわしい風景や環境に配慮した新たな構築物のあり方を検討する必要がある。

### **【議題 首里城の復興】について**

- 首里城周辺地域においては、100年後に緑豊かで石積みのある井戸から水がこんこんと湧き出ている、歴史ある生活空間を体感できるようなまち並みをつくりたいという地元の希望があることから、「自然豊かな歴史的空間」など「自然」という言葉を入れた表現とする必要がある。
- 首里城の交通の課題の解決のためには、パーク・アンド・ライドのバス停や駐機場等だけではなく、問題点がどこにあるのかデータに基づき対策を検討する必要がある。

### **【議題 沖縄らしい風景づくり】について**

- 道路の除草については、県道、市道、国道と管理者が異なるため、道路管理者の垣根を越えて対応する必要がある。
- 観光について国際競争力や他県との競争力を持つためには、観光地やインフラがきちんときれいにされていなくてはならない。そのため、道路や公園などのゴミ対策を行う必要がある。

### **【議題 防災・減災対策と社会基盤の長寿命化対策】について**

- 消防の広域化について、計画は改定されているが抜本的な解決の方向性が見いだされていない。次の十年に向けて打開策を講じる必要がある。
- 福祉避難所等や災害時要援護者の個別支援計画や個別避難計画の法律が改正されていることから法改正に合った表現にする必要がある。

- 流域治水について、沖縄県は他県と異なり複数の都道府県とか複数の市町村をまたがる大きな河川がない。そのため土地利用を考慮した表現にする必要がある。
- 水害や高潮も含めて、住民が避難すべきかどうかの判断材料となるハザードマップが作られていないため、まず浸水想定に関して整備するという表現を最初に入れる必要がある。
- 社会基盤の防災・減災対策において、地域の実情に応じた対策との表現があるが、例えば海岸の津波・高潮対策における必要な堤防高の確保など具体的な内容について示す必要がある。
- 路線バスの車庫などは低地に多く立地しており、津波、高潮対策として、南部地域の護岸整備を講じる必要がある。
- 浄水場や発電所などはほぼ海のそばに立地しており、地震津波などの災害に脆弱である。今後10年、20年でどういった減災・防災対策を行政として行っていくのか検討する必要がある。
- 沖縄で一定規模以上の災害が発生したときには、クルーズ船などを活用し、避難所とすることや港から避難させることも実際には考えないといけない。島全体の防災や社会としての安全を考えるのであれば、防災施設の整備だけではなく、災害が発生したら派生的にどういう影響がでるのか、それに対してどういった外からの支援を受け入れるかについても検討する必要がある。

### **【議題 離島の定住化】について**

- 渡名喜や粟国などの小規模離島では、出産や高齢者の介護などの面でいろいろな制約があり、宮古、八重山の様な大規模離島と同様に定住条件を示すことは難しく分ける必要がある。
- 小規模離島の定住条件については、基盤整備を行うだけではなく、漁港を水産や旅客、観光など複数の用途に利用するというような基盤の総合力が重要である点も踏まえ検討する必要がある。
- 教育、医療などを含めて小規模離島の問題は非常に重要であることから、道路、港湾を含む生活環境全体としての基盤と、防災の観点から

建設業を支えて行くことを検討する必要がある。

### 【議題 情報基盤整備】について

- デジタル化・オンライン化の促進について、10年後を考えると、もっと情報時代を超えた次の時代の流れになると考えられるため、「デジタルトランスフォーメーションを見据えたデジタル化・オンライン化を推進」や「第4次産業革命を見据えた行政サービスに取り組む」とするなどを検討する必要がある。
- 「エネルギーの安定供給とレジリエンス」について、解りやすい表現を使用すべきである。
- 沖縄が国際的な観光地となるため、それから、小規模離島における医療の問題、遠隔医療や教育、いろいろな面でこの通信基盤、技術は使えるため、5Gについては行政も関わって整備を進める必要がある。
- BIM/CIMや点群データの活用について、今後標準化され、建設業の労働生産性の向上や災害時における点検業務の迅速化などが可能となることから、BIM/CIMを明記する必要がある。
- 人流データなど定量的データの活用やDXの観点から様々なデータを補完及び利用できるデータのプラットフォームを整備する必要がある。
- 合意形成のプラットフォームとして、全国で展開しているアーバンデザインセンターのような多様な主体がデータに基づき話し合いができる場づくりについて、地域の生活者も関わるという観点も含め検討する必要がある。
- リモートワークに対して沖縄県としてどうしたいのか、どうなってほしいのかという考えをまとめる必要がある。
- AIやディープラーニングについては、デジタル化されたデータが必要であり、計画に、何をモニタリングするか、何を計測するかということ表現する必要がある。

### 【議題 上水道の計画的な整備】について

- 意見無し

